

カトリック河原町教会だより

2018年5・6月

「わたしは 世の終わりまで いつもあなたがたと共にいる」

教皇フランシスコ2016年復活徹夜祭ミサ説教から

ペトロとこの婦人たちと同じように、わたしたちは希望を奪われ悲しみに暮れていては、いのちを見いだすことはできません。自分の中に閉じこもるのではなく、自分自身の封じられた墓——わたしたちは皆、それがどんなものか知っていますが——を主に向けて開け放ちましょう。そうすれば、主が入られ、いのちを与えてくださいます。わたしたちの恨みの石と過去の岩、わたしたちの弱さと過ちという重荷を主に託しましょう。キリストは、わたしたちを苦しみから引き出すために、わたしたちを訪れ、手を取ろうとしておられます。わたしたちを自分自身の中に封じ込める失望。それこそが今夜、取り除くべき最初の石です。主が復活しなかったかのように生き、自分の問題が人生の中心であるかのように感じている、希望のないキリスト者になるという^{わた}畏れから、主がわたしたちを解放してくださいますように。

フラ・アンジェリコ画『キリストの復活』

(カトリック中央協議会HPから引用)



復活節からつづく 典礼暦

私たちは、復活の主日から聖霊降臨の主日までの50日間「復活節」と呼ばれる時を過ごし、復活節40日を経た主日に第7週「主の昇天」を祝います。復活節中、教会は聖書を通して復活後に出現されたキリストを中心におき、主の復活を証した弟子たちのいきいきとした姿とその復活信仰の足跡をたどっていきます。「聖霊降臨祭」は五旬祭と呼ばれ、旧約聖書では収穫を祝う日でしたが、エジプト脱出、すなわち過越日から50日目に結ばれたシナイ契約を記念する日となり、キリストの復活を祝う「大いなる50日」、復活節のしめくくりとして聖霊降臨祭を祝うようになりました。典礼暦は続いて、5/27に年間主日最初の「三位一体の主日」、6/3に「キリストの聖体」を祝います。(編集委員)



エル・グレコ画『聖霊降臨』

イエスに従う民衆

教会は今、主の復活を祝っている。主が起き上がり、墓から出て新たな歩みを始められたように、私たちも、主と共に、新たな歩みを始めている。この歩みは「イエスに従う民衆」としての歩みである。ルカ福音書の中に、イエスに従う人びとの歩みを見てみたい。

漁師であるシモンとその仲間、**「すべてを捨ててイエスに従った」**(5・11)。イエスは、レビという徴税人に、**『わたしに従いなさい』**と言われた。彼は何もかも捨てて立ち上がり、**イエスに従った」**(5・27-28)。イエスは、十二人、七十二人と、ご自分に従う弟子たちを任命された(6・12-16、10・1-12)。

イエスをご自分の死と復活を予告した後、弟子たちに言われた。**「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを救うのである」**(9・23-24)。

受難のためにエルサレムに上って行く途上、エリコの近くで物乞いをしていた盲人は、イエスにいやされた。**「盲人はたちまち見えるようになり、神をほめたたえながら、イエスに従った」**。

洛東ブロック担当 一場 修 神父

これを見た民衆は、こぞって神を賛美した(18・43)。エルサレムに迎えられたイエスは、神殿の境内で教えておられた。**「民衆[は]皆、夢中になってイエスの話に聞き入っていた」**(19・48)。

「民衆と嘆き悲しむ婦人たちが大きな群れを成して、[十字架への道を歩まれる]イエスに従った」(23・27)。十字架につけられたイエスを、**「民衆は立って見つめていた」**(23・35)。イエスと共に十字架につけられた犯罪人の一人が、この民衆に加わった。彼は言った。**「イエスよ、あなたの御国においてにるときには、わたしを思い出してください」**(23・42)。

エマオという村に向かっていた弟子たちは、復活された主に出会った。弟子たちは、この出会いの体験を、次のように語る。**「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」**(24・32)。主の復活を体験した、体験している私たちも今、心が燃えている。この心をもって、ルカ福音書が伝える民衆の群れに加わり、イエスに従って行きたい…

「ようこそ ユン神父様」 洛東ブロック協力司祭として着任

ユン・サン・ホ(尹相鎬)神父 (クラレチアン修道会司祭)のご紹介

生年月日: 1957年11月9日

韓国アンソン市生まれで、1歳からソウルで育つ。

日本で哲学を、韓国で神学を学ぶ。

助祭叙階: 2007年9月22日

(東京大司教区 聖イグナチオ教会で)

司祭叙階: 2008年3月30日

(大阪大司教区カテドラル 聖マリア聖堂で)

霊名: 使徒ヨハネ・レオナルド

クラレチアン会宣教師として7年間、東京で神学生の養成協力にあたる。その後大阪の今市、門真、大東の教会で司牧にたずさわり、4月から京都教区洛東ブロック協力司祭として着任。月曜日と木曜日は枚方レジデンスで執務の一方、洛東ブロックでミサと入門講座やレジオ・マリエなどを、また火曜日は伏見教会で、聖書の集い・分かち合いも担当される。

趣味: 旅行、テニス、サッカー、映画鑑賞(主にドキュメンタリー映画)など



運動好きの神父様で、日本語は大変流暢です。カトリック会館にお住まいで、自炊もしておられます。「食べ物がとても美味しいし、鴨川のほとりをよく歩いています」と京都をとても気に入られたようです。
“神父様、どうぞよろしくお願いいたします”

ユン神父様から信徒の皆様へ

京都初めての地です。東京や大阪とも違う“良さ”を感じています。足りないことがたくさんあると思いますが、一生懸命頑張りたいという思いでいっぱいです。

この時期は花粉症がひどく、咳やくしゃみなどに悩まされていますが、皆さん！ご理解の上、どうぞよろしくお願いいたします。

〈司祭叙階の時に選んだ“大切な言葉”〉
「み言葉は人となって、わたしたちの内に住まわれた」
(ヨハネ1・14)

洛東ブロック四旬節黙想会の日 2018年3月11日(日)

春の陽ざしが注ぐこの日、洛東ブロック四旬節黙想会が奥村豊神父の指導により伏見教会で行われました。

奥村神父司式による10時からのミサに続いて、午前と午後の二回にわたる講話がありました。その後奥村神父と一場神父によるゆるしの秘跡・個人黙想の時間があり3時半頃終了しました。



奥村神父の講話テーマは「いのちの輝き」で、「いのちの現状」、「旧約におけるいのちのとらえ方」、「新約におけるいのちのとらえ方」、「永遠のいのち」という、四つの観点からのお話でした。

参考文献にアンドリュー・キンブレル著『生命に部分はない』を取りあげ、現代社会におけるテクノロジーの発達に伴う「いのち」のとらえ方に疑問を投げられました。「臓器の売買」など現代医療に関わる問題、また食品問題に関しても、人間がいかに利潤目的でさまざまな研究をしているか等、具体的な例をいくつかあげられました。人間の利益目的の画策にキリがないこの現状の中、私たちは一体どうすれば「いのち」を取り戻し、それを輝かせることができるのか、それが今の大きな問いとなっていると問題提起されました。

そして私たちが、ないがしろにされているたくさんの小さな命に目を向けることを通してのみ、「いのち」とその輝きを取り戻すことができると強調。聖書との関わりから「いのち」について

考える時、「一人の回心」がいかに周りの人たちの状況を変え得るか、「回心」の大切さを話されました。

また、社会や教会の高齢化、少子化などについても否定的な見方に陥らないこと、長い聖書の歴史を見る時、どんなに不条理な悲惨な出来事が起きた時も、そこにはいつも計り知れない神の恵みと働きがあったと語られました。

「平凡な暮らしの中で、具体的に信仰を生きるとはどういうことか。み言葉は生きる中でひも解かれていく。聖書を読む時には、見方の転換が必要。人間の苦難や試練を超えて、命を輝くものとしてくださるのは神様…」等、さまざまな示唆にとんだ言葉をいただきました。(編集委員)



「灰の水曜日」から「主の復活」までを過ごして

2月14日「灰の水曜日」から始まった四旬節を、私たちは過越しの秘儀への準備期間として過ごしました。罪の現実をかかえた目に見えるこの世界に生きている私たちですが、復活によって罪を打ち破ったキリストの愛と、神の働きを信じ、それぞれの信仰を新たにされたいと思います。

「受難の主日」枝の主日 3/25

四旬節第6主日3月25日は受難の主日(枝の主日)でした。会衆は皆棕櫚(しゅろ)の枝を手にし、司祭の入場と共に祝福を受けました。今年はB年。菅原神父司式のミサでは「マルコによる主イエス・キリストの受難」が朗読され、この日からいよいよ聖週間が始まりました。



その翌日、祭りに来ていた大勢の群衆は、イエスがエルサレムに来られると聞き、なつめやしの枝を持って迎えに出た。そして、叫び続けた。

「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように、イスラエルの王に。」

(ヨハネ12・12-13)

聖香油のミサ 3/28

侍者合宿を終えた子どもたちが侍者をつとめ、大塚司教と教区司祭団の共同司式で「聖香油のミサ」が行われました。聖香油が聖別され、洗礼志願者の油と病者の油が祝福されました。油は司祭が各小教区に持ち帰り一年間使用します。また、司祭団が司教の前で、司祭叙階の日の“司祭の約束”を更新しました。



写真提供:京都教区広報委員会

聖なる過越の三日間 第1日目「聖木曜日」(主の晩さん)タベのミサ 3/29

主の晩さんのタベのミサでは福音書(ヨハネ13・1-15)の朗読後「洗足式」が行われ、最後に「聖体安置式」が行われました。ミサは大塚司教、小川神父、ホン神父の共同司式でした。司教は「イエスは僕のように蔑まされましたが、主の愛への信頼ゆえにどこまでも謙遜で神に従順であられました。私たちも主がしてくださることはどんなことも謙虚に受け取り、イエスの愛をいただいて歩んでいきましょう」と語られました。(編集委員)



聖なる過越の三日間 第2日目「聖金曜日」(主の受難) 3/30

聖金曜日の典礼は、人類の救いの歴史全体におけるキリストの受難と死を思い起こし、復活の希望をもって主の十字架を賛美するものです。主の死は過越しの途上の出来事であったことから、この日はミサは行いませんが聖体拝領を共にします。十字架も置かず、御像は覆われて祭壇布もかけられず、キリストの死を黙想しました。



聖なる過越の三日間 第3日目 復活の主日「復活の聖なる徹夜祭」3/31

「復活徹夜祭では、主の死と葬りを記念し、そして主の復活をたたえます。キリストの死に結ばれた者、キリストの葬りに結ばれた者、キリストの復活に結ばれた者となりなさい。これが洗礼なのです」(『信仰に生きる～典礼暦に沿って』聖書講座シリーズ12から引用)この夜10名の方が洗礼の恵みに与り私たちの共同体に加わりました。



光の祭儀



み言葉の祭儀



洗礼の祭儀

3.31 大塚司教の説教

イエスは十字架で息を引き取り、墓に納められました。その十字架から逃げてしまった弟子たちは、最後の晩餐をした、あの高間にいました。イエスの死から二日目の夜、弟子たちにとって、それは悲しみと恐れに満ちた眠れない夜でした。

一方、イエスを埋葬する時に付き添っていた女性たちは、その夜マリアと共に寝ずに起きていました。それは安息日が終わるのを待って、イエスの遺体に香油を塗るためです。女性たちはイエスが納められた墓に赴きます。どうやって中に入ったらよいのか、誰があの墓石を転がすのかと案じていました。しかし墓に着くと、入り口をふさぐ重い石はすでにわきへ転がしてありました。墓は開いていたのです。彼女たちは予想外の出来事に動転します。しかし、すぐ墓の中に入ることになりました。イエスの遺体がどのようになっているのか確かめようとしたのです。すると、墓は「から」でした。イエスの遺体はありませんでした。ますます不思議な気がします。それは「神の業の不思議」を思い起こさせる出来事でした。

墓をふさぐ石、それはこの世と死後の世界を遮るものです。ところが今、それはなくなっています。墓の中に入ることができるのです。墓の中に入るとは、この世から死後の世界に入っていくことであり、婦人たちはその時、神秘の世界に入ってしまったと言えるでしょう。

今晚この復活徹夜祭で10の方が洗礼を受けられます。洗礼を受けるとは、まさに神秘の世界へ入ることだと言えます。この世にしながら、死後の世界に希望をもたせる信仰の世界に入るのです。この神秘の世界に入るためには現実を恐れてはなりません。現実から逃げるのではなく、自分の中に閉じこもったり、よく理解できない事柄から逃げるのではありません。人生の問題を見て見ぬふりをしたり、否定したり忘れ去ったりするのもありません。この神秘の世界に入るには、居心地のよい世界から出て行かなければなりません。今までの古い自分を引っさげている安逸や快樂、自分中心の生き方を捨てることであり、神秘と愛に向けて、古い自分を出て行くことであると言えるでしょう。洗礼を受けると決意した時に、すでにそれが神からの呼びかけであると分かり、私たちはそれを受け止めたのです。

私たちは、その呼びかけに応える力もいただいているのです。神を信じるようになる、イエスの復活を信じるようになる、イエスの十字架の死によって罪が赦され、永遠の命をいただくことを信じるようになるのです。この世には理屈では理解できない出来事があるでしょうが、人間の理性を超えた神の超自然の働きの中に留まる恵みを与えられたのです。

洗礼を受ける皆さん、今から信仰宣言をし、キリストの復活の証人として生きていく人生が始まります。今どのような思いでしょうか。洗礼を受けて自分はどうか変わるのでしょうか。私たちは今日、第二朗読のパウロの言葉を聞きました。「あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。」洗礼を受けた私たちは、キリストの死にあずかる生き方が始まります。洗礼を受けた後も人生の多くの試練にさらされます。時に悲惨で不可解な出来事の中で、信仰の喜びを感じられない時もあるでしょう。信仰を迷い、神を疑うことがあるでしょう。しかし、私たちが信仰を感じられない時でさえ、それはキリストの死にあずかり、救いの道を歩んでいるのだということを決して忘れてはなりません。

私たちはすでに新しい命を生きているのです。新しい命を生きているから、キリストの死に結ばれているのです。私たちは罪に対して死んでおり、キリスト・イエスに結ばれて神に対して生きているのです。婦人たちは「あの方は、あなた方より先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。」と告げられます。キリスト信者のガリラヤ、それはこれからの毎日の生活そのものです。そのガリラヤでイエス・キリストとの親密さのうちに共に生きるのです。

それではここに集う皆さん、墓に入った女性たちと共に、そして洗礼を受ける人たちと共に、沈黙のうちに私たちも墓の中に入っていくしましょう。耳を傾け、静かにささやいておられる神の声を聞きましょう。そのために謙遜になりましょう。傲慢であさましい「自分という台座」から降りて身を低くし、強さも弱さも持ったゆるしを必要とする罪人であることを神に告白しましょう。そしてこれから洗礼を受ける方々と共に、全世界の人々と共に、命の贖い主である神の救いの業を記念して賛美と感謝をささげ、救いの恵みを告げ知らせる恵みと力をここに祈りましょう。

(文責:編集委員)



“受洗者の皆さん おめでとうございます”

復活の主日 日中のミサ 4/1 7:00・10:30・14:00 (英語)

「全能の父よ、あなたは、きょう御ひとり子によって死を打ち砕き、永遠のいのちの門を開いてくださいました。主イエスの復活を記念し、この神秘にあずかるわたしたちを、あなたの霊によって新たにし永遠のいのちに復活させてください」
(集会祈願より)

10時半のミサで大塚司教は、「私たちは死にたいほどの苦しみに直面することがあります。しかし、死から過越し、いのちを生きる力を与えられていることを忘れないでください。イエスの復活の信仰は私たちに希望を与えます。共にいてくださるイエスを、時間をかけて実感していった弟子たちのように、神に愛されている新しい自分を日々見出しながら主と共に歩んでいきましょう」と語られました。日本語に続き、この日は英語での説教もされました。



10時半のミサ後、前庭とヴィリオンホールにおいて懇親会が開催されました。手作りのスイーツやコーヒー、おにぎりやサンドイッチ、たこ焼き、綿飴、ぜんざい、ソフトクリームなどが準備され、和やかな楽しいひと時を過ごしました。ガールスカウトの皆さんが、ご復活祭の卵を配るお手伝いをしてくださいました。



“イースターエッグをどうぞ”

◇ 2018年5月～7月の行事予定 ◇

(予定は変更になる場合があります)

月	日	曜日	行 事 予 定
5	6	日	[復活節第6主日] 評議会5月例会 10:30ミサ後 世界平和の日
	13	日	[主の昇天] [復活節第7週]
	20	日	[聖霊降臨の主日] 南部地区合同堅信式 14:00(北白川教会)
	27	日	[三位一体の主日] [年間第8週]
6	3	日	[キリストの聖体] [年間第9週] 評議会6月例会 10:30ミサ後
	8	金	[イエスのみ心]
	10	日	[年間第10主日]
	17	日	[年間第11主日]
	24	日	[洗礼者聖ヨハネの誕生] [年間第12週] 聖ペトロ使徒座への献金
	29	金	[聖ペトロ聖パウロ使徒]
7	1	日	[年間第13主日] ペトロ岐部と187殉教者列福10周年記念ミサ 大塚司教霊名〈パウロ6/29記念日〉のお祝い 10:30ミサ 評議会7月例会 10:30ミサ後
	8	日	[年間第14主日]
	15	日	[年間第15主日]
	22	日	[年間第16主日]
	28	土	洛東ブロック会議 (河原町教会) 14:00
	29	日	[年間第17主日] 教会美化デー

『聖人たちの祈り』(ドン・ボスコ社)から

「すべてを取りあげ、受け入れてください」(聖イグナチオ・ロヨラ)

主よ、取りあげ、受け入れてください
私の一切の自由を 記憶を 理解を 意志を。



主よ、取りあげ、受け入れてください
私の所有する一切を。

すべてはあなたのくださったもの。
私はすべてをあなたにお返しし すべてをあなたにお委ねいたします。

私の神、すべてはあなたのもの。
お望みのままに すべてをお使いください。

あなたの愛と恵みをこそ 私にお与えください。
それだけでじゅうぶんです。

私の神、主よ これが願いのすべてです。



「ぶどうの会」巡礼バスツアーのご案内

「ぶどうの会」では下記の通り、巡礼バスツアーを計画しました。お誘い合わせの上、多数ご参加ください。(先着50名)

行き先:大和八木教会(滝谷花しょうぶ園、三輪素麺見学)

日 時:2018年6月2日(土) 8:00集合(教会前庭)

昼 食:橋本屋

解 散:午後5時半頃の予定 参加費:6,500円



河原町教会 ミサの時間

日曜日 (主日のミサ)

7:00

10:30

*英語ミサ 12:00 (第2・4週)

月曜日 6:30

火曜日 6:30

水曜日 6:30 18:30

木曜日 6:30

金曜日 18:30

土曜日 6:30 18:30

(主日のミサ)

信仰の学びのお知らせ

◇信仰入門講座◇

(1F集会室)

水曜日15:30 一場 修 神父
木曜日19:00 一場 修 神父
金曜日11:00 一場 修 神父
金曜日19:15 村上 透磨神父
金曜日17:30 [洗礼準備講座] 菅原 友明神父
土曜日11:00 " 菅原 友明神父
17:00 " 菅原 友明神父

※洗礼準備講座希望の方は教会事務室まで
ご連絡ください

◇洛東ブロック信徒養成講座◇

【河原町教会】第1土曜日19:30～20:30

菅原 友明神父

【伏見教会】毎火曜日10:00ミサ後～11:30

ユン・サン・ホ神父

毎木曜日14:00 菅原 友明神父

【桃山教会】毎火曜日15:00 菅原 友明神父

◇南部地区信徒養成講座◇

(6F会議室/毎月1回水曜日)

大塚 乾隆神父「典礼を学ぶ」

5月9日(水)・6月13日(水)・7月11日(水)

13:30～14:50 (注:時間変更)

◇『ラウダート・シ』読書会◇

(1F集会室/毎月2回第2・4木曜日)

14:00～15:30

指導: Sr. メリー・レベッカ・我部

※どなたでもお気軽にご参加ください

◇主日の福音を読む集い◇

(3F・301号室)

毎週日曜日9:30～10:15